

「イブラヒムの旅：境界を越えて」

小松久男（東京大学大学院人文社会系研究科）

はじめに

日本史・西洋史・東洋史の区分を越えた発想の必要性

アブデュルレシト・イブラヒム（1857-1944）とは誰か？

イスラーム世界と日本を結んだ熱烈な汎イスラーム主義者

1. ロシアとオスマン帝国におけるイブラヒム

- ・西シベリアからメディナへの留学 → ムスリム聖職者協議会のカーディー職
- ・ロシアの対ムスリム（イスラーム教徒）政策を批判するイスラーム主義者
- ・1905 年ロシア革命以後のロシア・ムスリム政治運動の指導者：名声と挫折

2. 明治日本を訪問したイブラヒム（1909 年 1 月－6 月）

- ・日露戦争に勝利した日本への関心：日本と日本人の詳細な観察
- ・トルコ系ムスリム読者への日本事情の紹介：カザンとイスタンブルの新聞・雑誌へ
『ベヤーヌルハック』カザン、『スラト・ミュスタキム』イスタンブル
- ・イスラーム世界解放のための日本との連帯の戦略
- ・明治末のアジア主義者との親交 → アジア義会の結成
頭山満（1855－1944）、内田良平（1874－1936）、大原武慶（1865－1933）
- ・日本陸軍とイブラヒム：参謀本部第二部長宇都宮太郎少将の日記

3. 戦争と革命の中のイブラヒム

- ・汎イスラーム主義のジャーナリスト
『イスラーム世界：日本におけるイスラームの普及』イスタンブル、1910 年
中央アジア（ブハラ）の改革主義者フィトラト（1886-1938）の評価
- ・トルコ・イタリア戦争に際しての日本外交批判：
「貴国の該行動は国運の発揚に関する千載一遇の好機を逸したるものと存ぜられ候」
- ・第一次世界大戦中の工作・宣伝活動（ベルリン・ストックホルム）
ドイツ軍の捕虜となったロシア・ムスリム将兵 → アジア大隊の編成
- ・1917 年のロシア革命とイスラーム世界解放の可能性：
ソビエト・ロシアとの共同と決別（1918-1923）
- ・トルコ革命の理念と汎イスラーム主義との相克：疎外されたイブラヒム

4. 再来日したイブラヒム（1933年11月 - 1944年8月）

- ・日本発のタタール語雑誌『新日本通報』に論説を寄稿
「アル・ジハード（聖戦）」1933年11月号（執筆は来日前）
- ・1938年5月に落成した東京モスクのイマーム
- ・日本の対イスラーム政策への協力
世界回教徒懇談会（1938年）
大日本回教協会（1938年）：「東亜新秩序の建設」と「3億を数えるムスリム諸民族」
南方向け宣撫映画『東京の回教徒』（1944年）への出演

おわりに

イブラヒムと日本

日本とイスラーム世界

参考文献：

- 青山光二「今だから語れるわが青春喜劇」『新潮45』1986年、11月号
- アブデュルレシト・イブラヒム（小松香織・小松久男訳）『ジャポニヤ：イスラーム系ロシア人の見た明治日本』第三書館、1991年
- 臼杵陽「戦前日本の「回教徒問題」研究：回教圏研究所を中心として」岸本美緒編『東洋学の磁場』（岩波講座「帝国」日本の学知三）岩波書店、2006年
- 宇都宮太郎関係資料研究会編『日本陸軍とアジア政策1：陸軍大将宇都宮太郎日記』岩波書店、2007年
- 古在由重『戦中日記』古在由重著作集第6巻、勁草書房、1967年
- 小松久男『革命の中央アジア：あるジャディードの肖像』東京大学出版会、1996年
- 小松久男「危機と応戦のイスラーム世界」『岩波講座世界歴史』21巻、1998年
- 小松久男『イブラヒム、日本への旅：ロシア・オスマン帝国・日本』刀水書房、2008年
- 坂本勉「山岡光太郎のメッカ巡礼とアブデュルレシト・イブラヒム」池井優・坂本勉編『近代日本とトルコ世界』勁草書房、1999年
- 坂本勉『イスラーム巡礼』岩波新書、2000年
- 司馬遼太郎ほか『司馬遼太郎歴史歓談』中央公論新社、2000年（初出は、『中央公論』1993年1月号）
- 杉田英明『日本人の中東発見：逆遠近法のなかの比較文化史』東京大学出版会、1995年
- 東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター（監修）『亜細亜義会機関誌『大東』（CD-ROM版 Ver.1）：20世紀アジア関係基本史料研究1』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター、2008年
- 若林半『回教世界と日本』大日社、1937年